



## 「土浦・勝田統括センターの新設について」団体交渉開催！その②

⑤異常時の対応能力の維持・向上に向けた取り組みや、初動体制、指揮命令系統を具体的に示して周知すること。

**確認事項 異常時の教育・訓練を行う。安全最優先で統括センター総体で駆けつける。**

組合：人身事故や踏切事故、車両故障や設備故障、地震等の教育・訓練を行うこと。

会社：営業統括センターや支社主催でこれまで実施してきた。消防や地域の方にも訓練に参加していただいた。二次災害を防ぐため、安全最優先で統括センター総体で駆けつける考えである。

⑥新たな業務を担う場合には、管理者が組合員・社員に寄り添い、丁寧に説明を行うこと。また、必要な教育・訓練は事前に行い、本人が不安なく業務に従事し、働きがいを持てる施策とすること。

**確認事項 新たな業務を担う際、不安なく業務に従事できる体制を整える。**

組合：新たな業務を担う場合、見習い期間の目安について示すこと。

会社：運転士が車掌を担う場合、2～3ヶ月である。ただ本人の習熟度や不安を把握して1本にする考えである。乗務員から駅に行く場合も何徹で1本など決まっていない。本人の状況を見て不安なく業務に従事できるよう1本にする考えである。

組合：乗務員のその他時間におけるMV操作について、その他時間の機会が少ないため、不安の意見が相次いでいる。実機を用いて教育を行うこと。

会社：不安がないよう知識や技量を高めるため、管理者や駅社員など総体でフォローする考えである。来年度、新しい機器が導入予定であるため、券売機案内に従事する社員には実機を用いて教育する考えである。

⑦本施策に伴う異動が発生する場合、ジョブローテーションの趣旨に則り、本人希望を尊重すること。

**確認事項 本人希望を把握する。**

組合：本部一本社間の趣旨に則り、本人希望を尊重すること。

会社：秋の面談で本人希望を把握する。また日々のコミュニケーションで把握に努める。ただし必ずしも本人希望が叶うわけではない。

組合：水戸地本第38回定期大会において、中編成ワンマン運転拡大や運転士の車掌業務により、車掌業務を希望する組合員は仕事が無くなる危機感を抱いている。丁寧なコミュニケーションを積み重ね、将来への不安解消に努めること。

会社：車掌業務が減少しているのは事実であるが、車掌が無くなるわけではない。本人希望を把握し、社員の活躍フィールドを拡大していく考えである。

JR東労組は組合員・社員の意見をもとに団体交渉に臨みました。安全や教育を中心に会社と議論しただけではなく、7月11日に開催した定期大会の発言も踏まえ、交渉内で組合員の要求を訴えてきました。今後は施策の検証を通じ、安全で働きやすい職場をつくり出しましょう！



## 安全・健康・働きがいの持てる施策をつくり出すため、JR東労組に結集しよう！